

苫小牧市は4月30日、2023年、24年度に展開する「ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦!」のキックオフイベントを市総合体育館で開いた。

ごみの減量やリサイクルの推進、カーボンニュートラル(温室効果ガスの排出ゼロ、CN)実現などに取り組む企業や団体の出展ブースがずらり。ステージイベントやキッチンカー出店などもぎやかに展開し、行政・市民、企業が一体で「大作戦」を進める機運を醸成した。

市の「大作戦」初の2年展開



「ゼロカーボン×ゼロごみ」キックオフ

CO₂を地中にためるCCS技術を模型で紹介。企業や団体が積極的に情報発信

生まれる市民のため、取り組まなければならぬ。一人一人でできることをやり、ごみの減量や二酸化炭素(CO₂)の削減に寄与し、脱炭素社会を作ると訴えた。

会場は企業や団体など44の出展ブースが並び、省エネやCN関連で先進的な企業などによる「環境EXPO」、体験が中心の「エンジョイ」など、コナーを大きく四つに分けて展開。ステージイベントも、本来は廃棄予定のせんべいをまいたり、リサイクル自転車を無料抽選したりと、楽しみながらごみゼロなど学びの

会場は企業や団体など1500人が訪れた。住まいのウチイケ苫小牧支店は、電力消費量などの収支ゼロを図る住宅ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)を紹介。EVや蓄電システムを使った電気の自給自足に、山手町の会員大沼哲さん(48)は「家庭用はコストが課題だが、EVが普及すれば」と夢を膨らませ

ある内容に。屋外では電気自動車(EV)や水素燃料電池車(FCV)を展示

た。北海道電力のブースで、手回し発電機による

「人力カメラ」の写真撮影を楽しんだ美園町の会員田中龍晟さん(22)

は「簡単に電気ができた」と喜びつつ「職場でもCNを進めていて興味がある」と話していた。

同大作戦のスローガンは「CO₂とCO₂(コツコツ)」。いこう♪次世代のために」。今年度はZEH

はCO₂を分離、回収しきることがある」と話し、日本CCS調査会社員大沼哲さん(48)は「家庭用はコストが課題だが、EVが普及すれば」と夢を膨らませ

将来的に使えるようになれば」と夢を膨らませ

環境学ぶ 楽しく



商品にならない余りのせんべいを袋詰めにしてまいったオープニングイベント

【ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦】
で予定の主な2023年度事業

【広げよう! ゼロカーボンとみんなの暮らし】(17事業)

- ・ゼロカーボン講演会(8月)
- ・ゼロカーボンハウス促進補助金

【実現しよう! ゼロカーボン産業都市】(5事業)

- ・ゼロカーボン支援コンサルティング事業
- ・省エネ再エネ設備導入補助

【目指そう! 資源が循環する053のまち】(28事業)

- ・ゼロカーボン×ゼロごみ大作戦祭り(8月)
- ・プラスチック代替製品の利用促進

【守ろう! 豊かな自然とみんなの未来】(11事業)

- ・生物多様性地域戦略の策定(24年度まで)
- ・北海道大学苫小牧研究林との協働事業(6~7月)